

令和2年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京極幼稚園）

教育目標

一人一人がその子らしさを發揮しながら仲間の中で育ち合う
心豊かで やさしく たくましく 生きる子

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>コロナ禍の中においても、年度当初の休園期間を除いて、健康を害して欠席する子どもがほとんどおらず、家庭のご理解、ご協力の下、感染症対策を講じていただいていることに感謝申し上げたい。幼稚園においても、ウィズコロナの世界における保育の在り方やその充実について色々に検討し、情熱を注ぎ、工夫を重ねて実践を進めてきた。ＩＣＴの活用や前例にとらわれない取り組み方などを進める契機にもなった。ほんまもんにふれる遊び、活動、幼小連携の取組、地域に根差した保育などを通して、心の豊かさや、やさしさや たくましさが育まれてきているものと考える。一方、園児の減少による、少人数での保育はいかにあるべきかが喫緊の課題である。「育ち合う」には仲間はどれほどであればよいのかなど、少人数保育の在り方についてその良さと共に課題にも目を向け、実践、検証を進め、保護者や関係者とも共有していくなければならない。また、将来につながる課題でもあることから、未就園児と保護者に対する子育て支援の取組についても併せて検討していかなければならない課題である。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>以前より少人数であることが課題であると思っていたが、コロナ禍においてはむしろ強みになり、今年度は適度なソーシャルディスタンスをとりながら、のびのびとした保育を実現していただけた。感染症対策についても子どもたちに対して、楽しく優しい対応で徹底されたので、感染症不安に過度に心が委縮しないで、子どもたちがこれまでとさほど違いが無いかのような姿で日常を過ごしていたように見受けられる。しかし、感染症に対してはまだまだ先が見えない状況である。緩むことなく対策を講じ、保育を進めてほしい。この機会に、多種にわたるＩＣＴの活用が工夫されていて良かった。少人数の状況は課題として残る。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年11月9日	学校運営協議会
最終評価	令和3年3月25日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 一人一人がその子らしさを十分に發揮しながら、仲間の中で育ち合う“協同性”を育むために、日々の保育や保育所・小学校との計画的・継続的な交流の中で、写真やエピソードをもとに、協同性につながる姿について、丁寧に読み取り、援助や環境を考える。

- ・少人数の良さと課題を意識し、一人一人の個性や今の姿を細やかに捉え、しっかりとねらいをもつて関わっていく。また、今年度は特に、園庭の遊びや環境を充実させ、異年齢の関わり合いが生まれる保育を目指す。
- ・園でも家庭でも、より絵本に親しみ、楽しめるように、絵本からイメージを広げて遊ぶ様子や「親子で絵本100冊」の取組の事例などを紹介したり、玄関に絵本スペースを設けたりするなどする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児の姿、環境や援助に工夫や充実が見られるか。
- ・園だよりの「子どもの姿」や掲示物、エピソード研修において、写真等をもとにわかりやすい発信、それらを活かした、保育の改善・充実の状況を考察、検討できているか。
- ・アンケート項目（1, 3, 4, 5, 6, 7, 9）

中間評価

各種指標結果

- ・週案に子どもの姿や環境設定の計画などを盛り込み、それらの振り返りを元に次週の案を立てている。特に、感染症対策についても記載、指導するようになっていた。また、機会をとらえて、2学年での取り組みについて打ち合わせて取り組むようにしている。
- ・園だよりには、子どもの生き生きした姿や簡潔な解説を載せて、保護者に知らせると共に、園の取り組みを振り返るのに役立てている。
- ・玄関に絵本スペースを設けた。
- ・アンケートでは、多くの方から概ね高い評価を得ている。（1, 3, 5, 6, 9）しかし、教職員はコロナ対策に緩みが出る懸念もありまだ徹底できていないのではないかと評価している。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・新型コロナ感染症感染、拡大防止のために、年度当初に長い休園期間があり、家庭で過ごす時間が長くなった。その間にも、園と家庭を繋いだり、家庭で楽しんだりできるようにと教材やDVDなどを制作し家庭訪問等で配布した。再開後も、感染症対策を講じ、幼児なりに理解して実践できるように指導したり、環境整備をしたりして、大きな病気やけがもなく、従来より制限はあるが、元気に過ごせている。
- ・常にリスクや不安を感じながらの毎日である。感染症対策に緩みや過信の無いようにしつつ、工夫して保育内容を充実させるように取組に励みたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今一度感染症対策について、取組を振り返り、低い気温、湿度を踏まえ、インフルエンザや食中毒等とも併せて緩みの無いようしっかりと取組を進めていきたい。しかし、その一方でのびのびと遊べるよう工夫した保育を進めていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・前期の指標に準じる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・公立幼稚園では、コロナ対策にしっかりと取り組んでいただき、子どもたちも意識してマスクをしているようである。引き続き適切に感染症対策を講じて園運営をしていただきたい。
- ・絵本に親しむことは、園だけでなく家庭でも取り組んでいただいているように思うが、それを記録に残すとなると「親子で絵本100冊」が難しく、保護者の反省の表れとなって評価を引き下げているものと察せられる。柔軟な運用や家庭での取り組み例の紹介などで無理の無い取組になるとよい。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートでは、概ね高い評価を得ている。(1, 4, 5, 9, 10)・新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する取組や意識が緩まないよう保護者にもご協力いただきながら保育を進め指導するようになっていたが、アンケートにも見られる通り、他の項目と比較すると評価が低い。・ホームページや「園だより」等で子どもの姿を写真や作品やコメントでいきいきと伝えるようにすると共に、保育の振り返りに活かすようにした。さらに、DVDや動画配信など新しいメディアも使った発信にも取り組んだ。・2学年合同での保育を計画して取り組むようにした。・コロナ禍の中にあっても、教育委員会の指導の下、感染症対策を講じて園外での遠足、交流等を実施し、保育の充実を図った。・「親子で絵本100冊」の達成者の割合が昨年度より増加した。	
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の中にあっても、制限された中ではあるが、感染症対策を講じて継続して保育を行うことができた。今後も当面はウィズコロナの世界での保育の在り方を模索し、意識を緩めることなく対策を講じて、充実した保育を進めなければならない。・今年度は園児が少人数であることで密集することが少なくコロナ禍の中においても十分に活動することができたが、少人数によるマイナス面にも着目し、例えば2学年合同の保育を進め等、保育の在り方を検討し実践する必要がある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・少人数の保育の充実を図ると共に、少人数保育の良さと課題を明らかにし、保護者にも知らせていくようとする。・2学年合同の保育も計画的に進めていくようとする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・これからコロナ変異ウィルスによっては、子どもたちの感染が心配されるため、より徹底した感染症対策を望む。しかしながら、今年度活動された内容を縮小されることなく工夫して取り組んでいただきたい。

(2) 幼小連携・接続について

<p>・地域の保育所、小中学校との子どもも相互、教職員相互の交流・連携を進め、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を共有することにより保幼小の円滑な連携・接続を推進する役割を担う。</p> <p>・鶴山保育所の子どもたちとは同じ小学校へ進学することを踏まえ、保幼の日常的な交流を通して子どもたちの安心につなげるようとする。</p> <p>・京極小学校の研究にも積極的にかかわり、事前事後の打合や授業参観での意見交換を行う。</p>	
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none">・年間交流計画の作成、鶴山保育所、京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流、作品展交流授業参観、懇談会、合同研修会へ参加ができているか。・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討を行っているか。・京極小学校研究に対する積極的な関わりができているか。

・アンケート項目（9）

中間評価

各種指標結果

- ・昨年度に準じた形で年間計画を立て、様々な取組を進める予定であったが、子ども同士の交流や教職員の会合等、その多くを中止せざるを得ない状況であった。しかし、感染症対策を講じた上でいくつかの子ども同士の交流行事や教職員の研修、打ち合わせ等を行うことができた。テレビ会議、描いたもの、動画などの交換など工夫して取り組むことができた。
- ・予め共通の動画を見た後で幼小連携、接続について研修する場を設けられた。
- ・それぞれの研究会に参加し合い、意見交換をすることができた。
- ・アンケート結果は、概ね高い評価をいただいている。

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の下での取組であったが、それぞれの状況を踏まえて、様々な対策を講じながら、工夫して取組を進めることができた。知恵を絞る中で、テレビ会議など新しい取組にも挑戦することができた。・幼小合同の研修会で、もっとお互いを知り合い、取組を進めていこうという機運が高まってきているように感じた。ここでも、事前に動画を視聴しておくというＩＣＴの活用の一端が見られた。・今年度後半も前期の取組を活かして、感染症対策を緩めることなく、講じながら、様々な工夫をしてより良い子ども同士、教職員間の交流、連携を進めていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">・小学校でも、接続部分としての1年生と年長児だけの交流、接続ではなく、全校挙げての取り組みについて模索し始められているようである。今年度の振り返りと同時に来年度の取組の計画を立てていきたい。コロナ禍は、いまだ終息の見通しが立たない。そんな中での交流の在り方、工夫、成果を今後に活かしていきたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	前期の指標に準じる。 <ul style="list-style-type: none">・交流が難しかった保育所等との交流も工夫して実施できたか。
学校関係者評	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・幼小の交流については、対面し、場や時を共有できるのが望ましいが、この状況ではリスクが大きい。その点、テレビ会議システムを使っての交流など、工夫して取り組まれており、今後も様々な交流の方策を考えていただければと思う。1年生からのアサガオの種のプレゼントなど良い交流の形かと思う。・できれば交流の対象を広げると共に、取組の様子を地域にアピールしてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・コロナ禍の中にあっても、小学校とは感染症対策を十分に講じつつ、年間を通じた交流を重ねてきた。時には、テレビ会議システムで幼稚園と小学校を繋いだり、手紙やDVDなどを交換したりする等、いろいろな工夫をしてきた。子どもたちは相手意識をもったやり取りができ、進学への思いを膨らませることにつながった。
- ・小学校の研究発表会に当初は研究保育の形で参加の予定であったが、感染症のリスクを回避するた

	<p>めにテレビ会議の形を取った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴山保育所とは今年度は交流を取りやめることとなった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中においても、感染症対策を講じて交流したり、テレビ会議システムを使ったりなど、ウィズコロナの世界での幼小交流の在り方を模索する様々な取組を進めることができた。これらを幼小の担当者を中心とした年間を通して取組とすることできた。 ・次年度もウィズコロナの世界での交流の在り方を模索することになる。今年度叶わなかつた保育所との交流についても、課題として取り組んでいきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きウィズコロナの世界での交流の在り方を模索し、実践していきたい。 ・KKPでも小中学校と幼稚園との接続について発言し、形あるものを示せるようにしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、今まで力を入れられていた鶴山保育所とはなかなか交流ができなかつたのは残念であったが、京極小学校とは、コロナ禍においてうまくテレビ会議システムを取り入れられて教室での様子を中継して子どもたちが「机の中身は何が入っているのですか？」と質問して答えたりしていた。後日交流ができる状況になると、実際の教室にお邪魔させてもらつていていた。幼稚園と学校が密に連携しているからだと感じた。

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が安心して参加できるように、指導者間の細やかで確実な情報共有や連絡の機会を意識して計画を立てる。 ・子どもの心身の負担に配慮しつつ、保育内容に地域の資源を活かしたり、工夫を加えたり、幼児期にふさわしい無理のない内容で実施する。 ・異年齢、少人数だからこそ経験できる活動を取り入れたり、参加人数やメンバーにより、保育要員を調整したり、環境を整えたりする。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムを作成し、事後に振り返り、計画の修正を行っているか。 ・保護者のニーズに応じた子育て支援になっているか。 ・アンケート項目（削除）
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育担当者と担任等との情報の共有によって、子どもの心身の負担に配慮した保育を進めている。預かり保育でも、なるべく密にならない環境設定をしているので、外部からの講師を呼ぶような内容は実施できていない。異年齢、少人数で仲良く遊ぶ姿が日常的に見られる。 ・コロナ禍の下でのリスクを考慮されたこともあり、新2号認定以外の方の利用は少なくなっている。しかし、ニーズに応じた支援は行っている。 <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の下での保育ということで、新2号認定の家庭以外の利用は極力抑えられているようである。しかし、ニーズに応じた利用には応えるようにしている。
自己評価	

	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を正規の保育時間から切れ目なく構ずるようにしている。 ・外部講師を招くなどして従来のような充実した内容にしていきたいが、感染症対策をどのようにするのが良いか、判断が難しく実施できていない。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を今後も正規の保育から切れ目なく、緩みの無いように講ずるようにする。 ・三密を避ける等感染症対策を講じ、従来の保育内容に近い内容で進められるように工夫するようとする。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>前期の指標に準じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の下、保育内容の工夫改善を進められたか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育が必要な新2号認定の家庭の方に優先して利用していただき、不要不急の利用は控えて幼稚園の負担を減らそうと保護者は考えている。 ・この状況下では、これまでのような外部講師を招くような内容で利用者を増やすことはリスクが大きくなるので、あまり求められていないだろう。しかし、急用など家庭のニーズには応えていただきたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を講じているということで、新2号認定の家庭だけでなく、1号認定の家庭の児童の利用も増えてきている。 ・特別メニューは喜ばれるが、大人数で密集することを避けるため外部講師を招くことを控えてきた。年間計画を見直し、子どもの姿を通して人気の教材を用意することで、利用者が増え、じっくり取り組む姿も見られた。 <p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不要不急の預かり保育の利用を控えていた方も安心して利用していただけるようになってきた。今後も感染症対策を十分に講じることで、利用したいときに利用できるようにしていきたい。また、外部講師を招いての特別メニューを取り入れたりすることで保育内容の充実を図っていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナの世界で、安心して預かり保育を利用していただくことに注力することに加え、例えば外部講師を招くなどして保育内容も充実させるようにする。
自己評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の方で柔軟に対応されていたと思う。感染症対策も徹底して適度に利用者を抑えつつも利用したいニーズに適応させていた。外部講師については保護者もコロナ禍が収まってからと認識していると思う。預かり保育が継続して安全に実施されたことを評価したい。

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育によって、保護者の就労等を支援したり、降園後に異年齢や同年齢の子どもと一緒に遊ぶ機会をもったりできるようにする。
--	---

- ・未就園児とその保護者が安心して遊んだり、保護者の子育ての不安や悩みを軽くしたりする場として、うさぎ組、ひよこ組の保育内容や時間数を充実させる。また、参加可能な在園児保護者の行事等への参加により、保護者同士が、子育てや幼稚園の様子などについて話す機会もつくる。
- ・取組の様子をホームページ、チラシ、ポスター、広報紙等で知らせたり、乳幼児をもつ保護者が集う場などにも積極的に出向いたりして、多くの方に参加していただけるようにする。まずは、園に足を運び、園の雰囲気を知ってもらうことで、入園者数増加にもつなげていきたい。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・未就園児の保護者と会話したり相談を受けたりできているか。
- ・幼稚園の取組をより分かりやすく伝えられるよう資料等用意できているか。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者数は増えているか。
- ・アンケート項目（10）

中間評価

各種指標結果

- ・就園児、未就園児に関わらず、保護者との濃厚接触を極力減らすようにとのことで、十分な会話はできていない。しかし、うさぎ組等の保護者とは、折に触れて会話するようにした。休園期間中、昨年度の登録者に向けて教材等を準備し、各家庭に届けた。その反応をホームページで紹介する等した。運動会にも感染症対策を講じて参加していただくようにした。
- ・幼稚園説明会を連続3回、延べ5回実施。保育の実際を紹介するための写真をふんだんに用意して説明するようにした。ホームページでも園の紹介に力を入れた。
- ・コロナ禍により、休園期間が長くなつたためか、リスクを避けるためか、利用者はあまり増加していない。しかし、断続的に申込みは有る。
- ・在園児保護者の評価は高いが、未就園児の保護者にはアンケートをお願いしていない。

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナ禍により、保護者としても、園としても積極的に幼稚園で大勢が集まることを控えることになった。理解していただいていたが、家庭での外出自粛が長引き、乳幼児には好ましくない状況になっていた。教材を作成し届けたことはわずかではあるが支援の一助となつたであろう。 ・徐々にではあるが、未就園児の親子が来園し、ひよこ組、うさぎ組の登録が増えている。 ・感染症対策にゆるみが出ないように十分注意をしつつ、充実した内容で喜んで利用していただけるようにしたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスだけでなく、インフルエンザや食中毒などに対する対策を引き続き緩むことなく講ずるようにする。 ・未就園児クラスの内容を見直し、子育て支援の充実を図る。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	前期の指標に準じる。
	・コロナ禍の下、未就園児クラスの内容の工夫改善を進められたか。

学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児のクラスの取組を見直し、充実を図っていることは保護者に喜ばれている。 長期の自粛期間に、未就園児クラスの登録者の家庭に教材を配布したことは、大変喜ばれている。コロナ禍でなくても、未就園児のいる家庭と訪問等でつながりをもつことは、今後も取り組んで行かれると入園にもつながることにもなり、よいのではないか。
-----------------	---

最終評価

自己 評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者との濃厚接触を極力減らさなければならなかつたため、時間を取って十分な話し合いはできていないが、声を掛けたり、子育て相談に関わったりするようにした。見学の問い合わせにも積極的に応じるようにした。 コロナ禍により、利用者はあまり多くはない。しかし、年度後半には徐々に申込みが増えて、にぎわうこともあった。イベントや特別な活動を計画する等工夫するようにした。
学校 関係者 評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響により、達成状況を単純に比較しにくいが、今後も感染症対策を緩みなく講じ、安心して利用できるようにしていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度も未就園児クラスの取組を見直し、充実を図っていきたい。 近隣の就学前施設、小規模保育施設等ともつながりをもち、情報のやり取りができるようにしたい。
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語での案内も積極的にされているためか、外国の方の参加も増えてきている。また、後期では園で遊ぶ未就園児の姿もたくさん見られるようになっているので、少しづつであるが、周知されているように思う。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の組織を充実させ、幼稚園と地域との相互の信頼関係をさらに深め、教育力を高めるとともに、的確な評価の下で、保育の充実を図る。 子どもが豊かに学び、育つ、より選ばれる幼稚園として、地域に根差した「ほんまもん」を取り入れた保育を進め、それを地域に発信するようとする。 園の教育内容、未就園児の教育相談や預かり保育などについて、積極的に広報し、広く知つていただくとともに、在園児の保護者にも、KKP や学校運営協議会など、地域とのつながりに支えられていることを折にふれて発信する。
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の組織により多くの地域の人がかかわっていただくなつたか。 幼稚園の取組を様々な形で地域に広報できているか。 地域の資源を活かした保育に取り組めているか。 アンケート項目（5, 8）

中間評価

各種指標結果

- ・コロナ禍の影響もあり、地域の方に関わっていただくことを控えた。可能な範囲では関わっていたいただき、保育の充実に協力していただいた。
- ・ホームページでは、幼稚園の取組の様子を紹介するようにしていたが、地域への回覧板等での広報が十分にできていない。
- ・感染症対策を講じた上で、可能な範囲で地域の資源を保育に取り込むようにした。(商店街の七夕、御苑等への散歩遠足、人材等)
- ・アンケート結果では、概ねA、B評価であるが、地域の良さを活かした保育については十分ではないという評価をいただいている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・コロナ禍の中で、地域の方に積極的に関わっていただくことは難しかった。しかし、可能な範囲で保育の充実に協力していただくことができた。
- ・商店街の七夕等の催し、御苑等可能な範囲で徐々に活用させていただいた。
- ・ホームページの更新は行ったが、広報紙を計画的に発行することはできていない。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後、状況を見て、お茶会、お琴等の体験に地域の方にお世話になればと考えている。しかし、感染症対策については、緩めることが無いようにしたい。
- ・幼稚園の取組を紹介する広報紙を回覧していただけるように計画、準備したい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

前期の指標に準じる。

- ・コロナ禍の下、感染症対策を講じた上で、地域の人材、資源を活かした保育の工夫改善が進められたか。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域の「ほんまもん」を子どもたちに触れさせたいという思いをもっておられる方もある。必要であれば、橋渡しをする。
- ・コロナ禍の下、いろいろと工夫して保育をしていただいている。
- ・広報紙を楽しみにしている方もあると聞く。多忙とは思うが、前向きに取り組んでほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・コロナ禍の中、地域の人材を活用させていただく機会は減ってしまったが、生き物の世話、お茶会の指導等、感染症対策を施した上でご協力いただき、保育の充実につながった。アンケート項目（8）でも、高い評価をいただいた。
- ・幼稚園の取組は、ホームページ、園だより、動画配信等で発信したが、地域の催物に参加して、じかに子どもたちの姿を見せていただくことは難しかった。
- ・コロナ禍にあって園外保育等制限が多い中でも、京都御苑、鴨川河川敷、相国寺様等、地域の資源を活かすことで保育の充実に取り組めた。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・コロナ禍の中においても、感染症対策を十分に講じた上で、地域の人材や自然、施設等を活用した保育を進めることができた。園外保育もほぼ予定通り実施し、ほんまもんにふれる機会とすることができた。
- ・大幅な増加は無かったが、未就園児とその保護者に本園を訪れて遊んでいただいていた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、対面では会合を開くことができなかった。対策を万全にして一堂に会して熟議したい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策等を十分に講じた上で、慣例にとらわれず、ウィズコロナの生活や保育の在り方を創り上げていかなければならない。 ・未就園児の親子にとっても魅力ある居場所になるよう、環境や内容やそれらの広報に力を入れなければならない。

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

- ・陶芸の先生を招きお茶碗を焼き、そのお茶碗を使いお茶会を開かれた。地域の方のお抹茶のお点前を受けられたのは年長児だけではあったが、コロナ禍にあっても地域とのかかわり、また、ほんまもんに触れる機会を工夫しておられる。動物についても地域に根差したものになってきている。また、朝の登園時については園長や教職員が地域の方に対しても挨拶運動をされていることを評価したい。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標

教職員が心身共に健康で、「わたしの幼稚園」と愛情と誇りをもって自園を語ろうという共通の目標の下、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場づくりを進める。

具体的な取組

- ・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。
- ・日頃から声を掛け合い、一人一人が「わたしの幼稚園」に欠かせない存在であることを認め合い、労い合い、尊重し合い、補い合うチームとしての意識を高める。
- ・育児短時間勤務の教員と他の教職員とが、互いに助け合い、これまでの経験を活かしながら、柔軟に仕事の進め方や役割分担を考える。そして、その工夫や課題を記録に残す。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・時間外勤務の時間が減少しているか。
- ・年休の取得が昨年度より伸びているか。
- ・休憩時間にリラックスして過ごす様子が見られるか。

中間評価

各種指標結果

- ・一般教職員の時間外勤務時間は少ないが、管理職はやや減少しているものが多い。
- ・個人差はあるが、必要な年休は取得している。
- ・休憩しながら、談笑したり、子どもの情報を交換したりしている。

自己
評
価

分析（成果と課題）

- ・コロナ禍で、休業期間が延びたり、在宅勤務をしたり、感染症対策や消毒作業等に従事したりする等、不規則な勤務になったが、時間外に及ぶことは少なかった。
- ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろっているとは限らないが、助け合い柔軟に業務にあたっている。しかし、コロナ禍、少ない園児数などの状況で、教職員の配置、役割分担など検討し、共通理解を図って取り組むようにしたい。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の極端な偏りが軽減されるように、役割分担の見直しを図るようにする。 ・休憩時間によりリラックスできるように、工夫する。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>前期の指標に準じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に鑑み、教職員の役割分担等検討し業務にあたる。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任をもちろん教頭の業務は、本園に限らず過多ではないかという声をしばしば聞く。専任教頭配置など人事のことは簡単には行かないが、園内でも教頭に業務が集中しすぎないよう考えてほしい。 ・休日中の動植物の管理は学校運営協議会に担当の企画推進委員会を設けて、地域の方の協力を頂くなど方策を考えてはどうか。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期同様、一般教職員の時間外勤務時間は少ないが、管理職はやや減少しているというものの依然として多い。しかし、徐々に業務の役割分担を進めている。 ・必要な年休は取得するよう呼びかけ取得するようにしている。 ・休憩の時間には、談笑し、子どもの情報交換をしている。
自己 評 価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般教職員の時間外勤務はほとんどないが、担任を持つ教頭の時間外勤務の縮減はまだまだ進んでいない。 ・徐々に業務の役割分担を進めているところである。さらに「私の幼稚園」の思いをもって語り合える風通しの良い明るい職場づくりを目指していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、リスクを低減する上で必要な勤務の在り方を検討する。 ・さらに可能な範囲で業務の偏りの是正を進めたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも遅くまで残業されているのが気になっている。働き方改革を進めていただきたい。また、園にとっては大事な動物のお世話だが、休日のお世話についても教職員の負担が気になる。負担軽減について学校運営協議会でも考えたい。